玉川大学リベラルアーツ学部研究紀要
第９号（2016年３月）

リベラルアーツ学部における国語科教員養成カリキュラムに関する基盤研究

永井悦子　中村　聡　中田幸司

一．はじめに

玉川大学リベラルアーツ学部は、平成一九年の開設以降国語教職課程を設置してきた。その前身である文学部リベラルアーツ学科（平成一五年四月から平成一九年三月）の時期を含めると既に一〇〇名近くの国語科教員を輩出したことになる。

本稿では、教員養成系学部、日本語日本文学系学部などの専門学部とは異なる環境下で行ってきた本学部における教員養成カリキュラムの再検討と新規授業コンテンツ開発[1]を進めるための基盤として実施した本学部国語教職受講生への意識調査の結果報告を中心に、現在の本学部国語教員養成カリキュラムを振り返ることで今後のカリキュラム改編への課題を見出すことを目的とする。

二．リベラルアーツ学部における国語教職課程の現状

二―一　リベラルアーツ学部教職課程編成における基本方針と教職課程

まず、本学部の人材養成目標および国語教職課程のカリキュラム、教職課程受講生の進路等について現状をまとめておきたい。

本学部の人材養成に係る基本方針は、「幅広く深い教養および総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養する」ための教育を推進し、将来のキャリア形成を意識しながら、「学際的教養教育」かつ「知の基盤」の充実を図ることに主軸がおかれ、将来自身の蓄えた経験と知識を社会に還元できる「コミュニティの知的リーダー」となる人材を育成することを目的としている。こうした人材育成のために、四年間を導入期（一年次）、発展期（二年次）、専攻期（三年以上）と位置づけ、導入期に日本語、英語、情報リテラシーといった基礎力の修得、導入期から発展期にかけて種々の分野の学問の基礎、およびそれらを学際的に学ぶ視点の獲得、専攻期に各自の定めた専門分野の研究深化が行えるようカリキュラムを編成し、四年間を通し多角的な視野と実践的な経験を以て問題解決を図る力の育成を行っている。

平成二七年度現在、学部に設置されるメジャー（専攻）は、「日本語コミュニケーション」、「英語コミュニケーション」、「日本学」、「芸術表現」、「社会学」、「心理行動科学」、「科学技術コミュニケーション」の七分野であり、発展期の最終段階で学生各自が一つ、もしくは二つのメジャーを選択する。国語教職課程を受講する学生は、その興味から「日本語コミュニケーション」や「日本学」メジャーを専攻する場合が多いが、特段履修上の制限は設けておらず、「心理行動科学」や「芸術表現」といったメジャーを専攻しながら教職課程を履修する学生も存在する。

また、本学部の人材養成目標達成のための教育活動の特色として、実験・実習・調査・フィールドワークなどの体験型学習を積極的に取り入れている点が挙げられる。七つのメジャーそれぞれが体験型のプログラムを有しているが、特に教育に関する体験型プロジェクトとしては、夏期休暇期間中に北海道内の小学校において教育体験を行う「北海道プロジェクト」をこれまで八年連続して実施してきた。また、玉川学園（中等部・高等部）をはじめ地域の小・中学校での教育ボランティア活動、地域の日本語学習支援教室等で日本語の補助が必要な児童生徒への学習支援ボランティア等への参加を推進してきた。特に希望する者には、ボランティア実施機関責任者の監督のもと、所定の時間数の現場実習を行い報告書作成、プレゼンテーションの実施を行った後に「学外実践実習」として単位（二～三単位）を認めている。

二―二　国語教職課程受講生の履修に関して

本学部では現在、中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許

所属：リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科

状（国語）（以下、それぞれ中学国語・高校国語とする）と小学校教諭二種免許状（以下、小二免とする）を取得することができる。ただし、一年次に担任教員、教職担当教員の許可を得た上で教職課程受講希望の申請を行い、一年次、二年次終了時に累積ＧＰＡが二・四を上回ること、三年終了時に所定の科目履修を修了していることといった受講条件を満たすことが必要である。また、小二免は通学課程での学修と並行し本学通信教育部で必要な科目を履修するプログラムで、中学国語・高校国語の教職課程の受講生であることに加え二年終了時にＧＰＡ二・八を上回る者でなければ受講が認められない。

例年、一年次終了時には五〇名を超える国語教職課程希望者があるが、以下の【表1】に示した通り、毎年増減はあるものの最終的には、二〇～三〇名程度の学生が国語教職課程を修了している。

次にカリキュラムとその履修に関してまとめる。前節でも述べた通り、リベラルアーツ学部開設時以降、教職課程受講生とそれ以外の学生との間に卒業に関わる単位配分に違いを設けることはせず、導入、発展、専攻それぞれの時期に幅広く各種分野の科目を取得できるようにカリキュラムが設定されてきた。しかし、平成二五年度より教職課程受講生の単位配分が一部変更され、一般教養科目や専攻期の専門科目の必修科目数が減少した。稿末の【資料1】が平成二四年度入学生、【資料2】が平成二五年度入学生以降の単位配分である。ただ、導入・発展期の単位配分には大きな違いはなく、幅広い教養を身につけた上で専門的な知識を深めるという構造は共通している。また、必修科目数は減少しているが、教職課程受講上、専門科目群履修は不可欠であり、実質的に変更前と大きく異なることはない。全学および本学部で設置する教科、教職科目は【資料3】の通りである。

【表1】平成24-26年度教職課程受講者数・教員採用試験結果

	公立学校			私立学校	国語教職課程受講者数
	名簿登載		臨時採用	私立学校	
	中高	小			
平成26年度	4	1	1	2	24
平成25年度	1	2	3	4	19
平成24年度	4	2	6	4	33

二―三　過去三年間の採用状況に関して

本学教職課程修了者の進路について、特に教職へ進んだ者の数を【表1】にまとめた。年度によってばらつきはあるものの、受講生の約半数は公立・私立学校へ就職をしている。表中の数値は現役生のみのものであるが、大学院進学や公立学校教員選考の名簿登載を目指して受験準備中だった過年度生を含めるとさらに数値はあがり、教育実習を経てもなお教職への思いが強い者は、あらかた希望通りに就職できている。これは、教職課程受講生自身の努力に加え、教職課程に関連する担当教員、本学教職サポートルーム教員の授業外のサポート体制が強化されつつあるという背景があってのことだといえる。

三．リベラルアーツ学部国語科教職課程受講生の傾向把握

本章では、平成二六年度国語教職受講生一九名（三年生・四年生）に対して行ったアンケート結果についてまとめる。アンケートでは主に、教職への志望動機、大学入学前の「国語」学習状況、教員としての自身の資質に関する意識、本学部の教員養成プログラムについての意識の四分野について質問を八項目設定した。調査期間は、平成二七年二月五日～一五日、【資料4】として稿末に掲げたアンケートシートに記名したうえで、回答してもらった。（回収後、回答の理由等について別途フォローアップインタビューを行った項目もある）

本稿では、紙幅の関係上、教職課程受講志望の動機に関わる項目は割愛し、教職課程プログラムと関わりが深いと考えられる項目三から八までの結果を報告し、考察を行いたい。

三―一　項目三、四―大学入学以前の「国語」学習の状況―

項目三では、大学入学前、自身が生徒であった時にどのような「国語」の学習活動が好き（嫌い）だったか、項目四ではどのような学習経験があるかをたずねた。（いずれも複数回答可とした）回答数はそれぞれ【表2】【表3】の通りである。

まず、大学入学前に好きだった活動は、「物語・詩の読解や鑑賞」が最も多く「漢字の学習」、「説明文の読解や鑑賞」、「ディベート」と続く。これに対し、嫌いだった活動として回答数が多かったのは「文法の学習」、「漢文の読解や鑑賞」、「物語や詩の創作」「説明的文章の読解や鑑賞」と続く。国語科の教員を目指そうとする者が物語や詩の読解や鑑賞を好むという結果は、容易に予想されるものであろう。

【表3】項目4回答数（総数19）

項目	回答数
a．物語・詩の読解や鑑賞	1
b．説明的文章の読解や鑑賞	3
c．漢文の読解や鑑賞	11
d．古典文字（物語、和歌）の読解や鑑賞	9
e．漢字の学習	4
f．文法の学習	6
g．物語や詩の創作	9
h．g. 以外の作文	3
i．スピーチ	6
j．ディベート	6
k．朗読	2
l．文学史	5
m．その他	—

【表2】項目3回答数（総数19）

項目	回答数	
	好き	嫌い
a．物語・詩の読解や鑑賞	15	2
b．説明的文章の読解や鑑賞	6	6
c．漢文の読解や鑑賞	2	9
d．古典文字（物語、和歌）の読解や鑑賞	4	4
e．漢字の学習	9	4
f．文法の学習	3	10
g．物語や詩の創作	3	6
h．g. 以外の作文	3	3
i．スピーチ	2	5
j．ディベート	6	4
k．朗読	3	3
l．文学史	2	5
m．その他	—	—

これに対し、「嫌い」と感じる活動を生んだ背景についてフォローアップインタビュー等の結果をもとに二点、挙げておきたい。まず、一つは、学習経験の不足である。「物語や詩の読解や鑑賞」に比べそれを自分で「創作」することについては好まない者が多かった。この「物語や詩の創作」や「漢文の読解や鑑賞」は、項目四【表3】みると、いずれも自身が生徒として経験を多く積んでいないものであることがわかる。この他「スピーチ」、「ディベート」なども同様であり、学習経験が乏しいものには苦手意識を抱きやすいことがうかがえる。

さらにもう一つ考えられるのは、これまでの学習方法の「まずさ」である。嫌いな項目で回答の多かった「文法の学習」と「漢文の読解や鑑賞」は、フォローアップインタビューでその理由をたずねると、ルールを覚えることが学習の中心であり、学習活動が単調で退屈なものになっていたという。

しかし、平成二〇年に改訂された学習指導要領では、小学校から高等学校まで教科の目的に「伝え合う力」、「思考力や想像力」、「言語感覚」というキーワードが並び、「伝統的な言語文化に親しむ」ことにも重きが置かれるようになっている。教職課程の学生が教職に就いた際には、自身が児童・生徒として学習経験を積んでいない、もしくは好まないディベートやスピーチ、創作活動等に積極的に取り組まなければならないことが予想される。また、「言語感覚」を磨くためには種々の言語活動を通して、文法をはじめとした日本語の体系を感じ取る体験を児童・生徒に積ませる必要もあるだろう。こうした苦手意識をもつ、もしくは学習体験の少ない学生が多いことを念頭に置き、今後、カリキュラムおよび授業内容を工夫する必要があろう。

三―二　項目五―人物特性（教師としての資質に関連して）―

項目五では、自身が教員としての資質を備えているかをたずねた。基本的にa～tまでの質問項目は、平成二四年八月の中央教育審議会による答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の相互的な向上方策について」（以下、平成二四年答申とする）でまとめられた「これからの教員に求められる資質能力」（二～三頁）で指摘されていることがらを中心に据えたものである。（一部それを詳細にたずねるように設定した）

回答数は、【表4】の通りである。多くの学生が充足していると感じているのは、「協調性」、「責任感」、「コミュニケーション力」であった。本来的な資質もあろうが、本学部の目指し実践しているカリキュラムを通し、学生

【表4】項目5回答数（総数19）

項目	回答数	
	不足	充足
a．授業実践力	10	3
b．現代文学作品を読み解く力	5	4
c．論理的文章を読み解く力	6	3
d．古典（日本古典文学）教材を読み解く力	11	1
e．漢文教材を読み解く力	13	2
f．文法や言語事象に関する理解	7	1
g．コミュニケーション力(特に対人関係を築く能力)	3	8
h．自己表現力	5	5
i．使命感	1	7
j．責任感	1	9
k．協調性	2	10
l．児童や生徒を理解するための知識	4	4
m．国際的な感覚	12	1
n．社会人としての常識	4	3
o．教師という職に対する誇り	2	6
p．ボランティア精神	2	3
q．メディアリテラシー	2	4
r．現在の教育制度や法規についての理解	8	1
s．問題や課題を自力で解決していく能力	1	5
t．社会人としての常識	1	1
u．その他	※	

※すべて不足

自身も自覚的になるところがあったとも考える。

これに対し、不足していると多くが回答したのは、「古典教材」や「漢文教材」を読み解く力、「授業実践力」、「国際的な感覚」であった。前節でも見たとおり、古典や漢文はこれまでの学習経験が浅いこと、本学部に設置されている科目数が十分でないことが要因であろう。「授業実践力」に関しては、大学生を対象にした調査であることから致し方がない結果ともいえるが、「国語科指導法」を始め多くの授業で機会を設け、自身で授業を組み立てる経験を少しでも多くもつよう授業内容を工夫していく必要がある。また、「国際感覚」については、一朝一夕に身につくものではないが、学部や玉川学園（中等部・高等部）で受け入れている海外からの短期研修生とのコミュニケーションや地域で日本語を学ぶ外国人、外国にルーツをもつ児童生徒への学習支援ボランティアなど積極的に取り組むことで、教職に就く前に種々の下地作りが行えると考える。

三―二　リベラルアーツ学部の国語教職課程に関して

項目六、七ではリベラルアーツ学部で国語科の教員免許状を取得することのメリット・デメリットの有無をたずねた。回答者一九名全員、メリットがあると回答し、そのうち五名がデメリットもあると回答した。

具体的なメリットとして、「a　日本文学や日本語と言った専門科目以外の授業やゼミが受講できる」と回答した者が最も多く一三名で、「b　さまざまな分野に興味を持つ友人に出会える」が七名、「c　教職以外の進路へ変更しやすい」が四名となった。その他として、「大学の学びに積極的に取り組んでいる仲間に出会える」「問題解決能力が身につく」などがあった。これに対し、デメリットとして「a　日本文学や日本語と言った専門科目に関する授業やゼミが少ない」と回答した者が三名、「c　教職に就くという決意が揺らぎやすい」が一名、その他として「授業実践の機会が少ない」という回答があった。

二章でまとめたとおり、本学部のカリキュラム構成が併せ持つ利点と欠点を学生も同様に感じながら履修を進めていることがうかがえる結果となった。本学部では、国語教員養成に関わる科目だけに特化せず、幅広い授業科目やゼミを選択することが可能であり、教員としての基礎教養として幅広い分野を学べること、さまざまな目標を持つ友人と意見を交わせることをメリットだと受け止めつつ、国語教員としての高い専門知識を学べていないのではないかという不安を抱いていることがわかる。

これらについては、国語教員としての基礎力育成のための選択科目の幅を広げること、さらに授業外活動の積極的活用等の工夫を行うことなどをもって対処していかなければならない。

四．まとめ

以上、本学部の人材目標、履修方法、就職状況および、国語教職課程受講生への調査結果を報告し、その背景や課題について考えてきた。節ごとに課題や考えられる対応策を示してきたので、最後にそれらを総合し人材育成目標やカリキュラム、授業外サポートという二点から現状における課題と対応策を提示して、まとめとしたい。

（一）人材育成目標、カリキュラム等

本学部は、教員養成に特化した学部ではないため、先に述べた通り「幅広く深い教養」と「豊かな人間性」を人材育成目標の第一に掲げる。しかし、これは奇しくも平成二四年答申でまとめられた「これからの教員に求められる資質能力」（二一-三頁）に符合する。具体的に平成二四年答申で挙げられているのは以下の三点である。（以下、答申より抜粋）

（i）教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力（使命感や責任感、教育的愛情）

（ii）専門職としての高度な知識・技能（後略）

（iii）総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）

本学部では、体験的な学修を重んじており、先に挙げた教育ボランティアの他に導入期、発展期にクラスメイトとチームを組み、フィールドワークを実施するなど協働学修を進め、成果をプレゼンテーションする機会を設けており、ある程度のコミュニケーション力養成は行えているものと考える。

履修に関しても、教職課程受講者以外の学生と大きな違いなく種々の分野を選択できるように設定されていることから、種々の角度から事象を捉え、問題解決につなげる力も養えていると考える。三章で報告した学生の意識調査をみても、おおかたの学生が種々の学問分野に触れることをメリットだと感じている。ただ、【資料3】に示した通り、教員養成系や日本語日本文学系の学部に比べて設置されている専門的科目のバラエティは乏しいと言わざるを得ず、学生の回答にもこの点を憂慮する声があった。なかでも、古典教材や漢文教材の指導、文法等の言語事項の指導、ディベートやスピーチといった自身の学習経験の浅い学習活動を指導する力、さらにそれらを授業化し実践する力を強化できるような授業内容を工夫し提示する必要がある。特に、古典や漢文教材については、本学部の特質でもあるフィールドワークを交え、現代のさまざまな事象の体験から教材研究を行う方法も効果的であると考え、コンテンツ開発を進めるべく検討を行っている。この詳細については稿を改めて述べることとしたい。

（二）授業外サポート体制の強化

三章でまとめた通り、本学部受講生は、学部のカリキュラムを通しコミュニケーション力や協調性、問題解決能力が身についたという実感をもっていることがわかったが、その反面、専門性の不足を不安視していることもうかがえた。

しかし、現在のように全学的に一セメスタあたり一六単位という取得制限があるなかでは、先に述べた通り現在設置されている授業コンテンツの工夫以上に、科目の増設など大がかりな改編を行うことは難しい。よって、現在社会が求める教員の資質を満たし、即戦力として名簿登載されるような学生を養成するためには、本稿各節で述べてきた通り、現在設定されているカリキュラムを補完するような授業外のサポート体制を整え、学生各人に不足する専門的な知識や技能を補う必要があると考える。

その一つが、教職サポートルーム担当教員との連携強化である。学校現場での経験が豊富な教員の指導により、学生だけでは補うことのできない実践力の強化を図るプログラムの構築が急がれる。また、冒頭で述べた通り、本学部から巣立った多くの現職教員と連携することもサポート体制の一つになると考える。現在でも、「教職実践演習」「教育実習事前指導」といった授業の外部講師として卒業生の現職教員を招くことがあるが、卒業生の現職教員を組織化し、講師依頼や研究会等の活動を恒常化することによって現役学生が教育現場の「今」を知る機会が格段に増えることになるだろう。本学部（本学科）卒業生を母体とした現職教員を組織化し、現役大学生への指導のみならず、卒業生と大学間で指導・研究情報を共有できるような卒業生と大学間の相互協力体制の構築もまた急がれる。

二章で触れた通り、教職を強く志望する学生は、専任、非常勤等の職種の違いはあるものの、幸いにしてこの数年はその多くが教職に就くことができている。今後も多くの教職を目指す学生がその希望を叶え、さらに児童・生徒、学校、社会に望まれる教員として活躍できるよう、本学部カリキュラムおよび学生の特質をおさえたうえで今後のカリキュラムおよびコンテンツ構築を進めるべく努めたい。

【追記】本稿は、玉川大学平成二六年度学部共同研究「リベラルアーツ学部における国語科教員養成カリキュラムに関する基盤研究とコンテンツ開発」の成果の一部である。また、平成二七年二月一九日に行われた玉川大学リベラルアーツ学部ＦＤ研修会における口頭発表に加筆したものである。席上有

益なご意見をいただいたことに改めて深謝申し上げる。

【注】

1　平成二六年度玉川大学学部内共同研究に筆者らグループの「リベラルアーツ学部における国語科教員養成カリキュラムに関する基盤研究とコンテンツ開発」が採択され、学生への意識調査、授業コンテンツの開発等を行った。

【参考文献】

兵庫教育大学教員養成スタンダード研究開発チーム（二〇一二）『（兵庫教育大学教育実践学叢書Ⅰ）教員養成スタンダードに基づく教員の質保証』ジアース教育新社

（ながい　えつこ／なかむら　さとし／なかだ　こうじ）

【資料1】平成二四年度入学生　卒業単位配分

科目群	科目分類	必要単位	備　考
ユニバーシティ・ スタンダード科目群	玉川教育・FYE科目群	8単位	
	人分科学科目群 社会科学科目群 自然科学科目群 学際科目群 言語表現科目群（FEL科目を除く）	14単位以上 （4単位以上） （4単位以上） （4単位以上） （4単位以上） 任意	
導入科目群	必修 選択	26単位 6単位以上	
発展科目群	必修 選択	2単位 10単位以上	※教職履修者 選択6単位以上
専攻科目群	必修 選択	10単位 10単位以上	※教職履修者 選択8単位以上
関連科目群 教職関連科目群 他学部開講科目 単位互換科目	自由選択	任意	
卒業に必要な単位数		124単位以上	

〈注意〉教職課程履修者は、別（備考）に定める単位配分での履修になります。

【資料2】平成二五年度入学生　卒業単位配分

卒業までの単位配分（教職課程受講者以外）

科目群	科目分類	必要単位	備　考
US科目群	玉川教育・FYE科目群	7単位	
	人文科学科目群 自然科学科目群 社会科学科目群 学際科目群 言語表現科目群	30単位以上 （4単位以上） （4単位以上） （4単位以上） （2単位以上） （16単位以上）	リベラルアーツ学部必修US科目群18単位ならびにメジャー別履修プログラム「6単位以上必修」の部分の科目6単位以上を含み、30単位以上
導入科目群	必修	7単位	必修：LA入門、リベラルアーツセミナー、キャリアセミナーⅠ　Ⅱ
発展科目群	必修選択 選択	2単位 10単位以上	必修選択：ブリッジ講座もしくはInt. to LA
専攻科目群	選択	10単位以上	
関連科目群 その他のUS科目群 他学部開講科目 単位互換科目	自由選択	任意	
卒業に必要な単位数		124単位上	

卒業までの単位配分（教職課程受講者）

科目群	科目分類	必要単位	備　考
US科目群	玉川教育・FYE科目群	7単位	
	リベラルアーツ学部US科目群	24単位以上	リベラルアーツ学部必修US科目群18単位ならびにメジャー別履修プログラム「6単位以上必修」の部分の科目6単位以上を含み、24単位以上
導入科目群	必修	7単位	必修：LA入門、リベラルアーツセミナー、キャリアセミナーⅠ　Ⅱ
発展科目群	必修選択 選択	2単位 10単位以上	必修選択：ブリッジ講座もしくはInt. to LA
専攻科目群	選択	6単位以上	
関連科目群 その他のUS科目群 他学部開講科目 単位互換科目	自由選択	任意	
卒業に必要な単位数		124単位以上	

【資料3】中学・高校教員免許状取得に必要な学部設置科目

教科に関する科目

国語

免許法施行規則に定める科目		本学で開設する科目		修得単位	備　考
科目	単位	科目	単位		
国語学 （音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	20	○日本語表現（JNL）101 日本語表現（JNL）102 ○日本語学 日本語学演習 ○日本語文法論Ⅰ 日本語文法論Ⅱ 日本語音韻論 日本語語彙論 日本語学研究 日本語史	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	20	
国文学（国文学史を含む。）		○日本文学概論 ○日本文学史 ○日本文学演習 近代文学演習 日本文学研究 ○古典文学演習Ⅰ 古典文学演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2		
漢文学		○漢文学 漢文学研究	2 2		
書道（書写を中心とする。）		○書道	2		中1種免のみ＊
	20	免許状取得に必要な単位数		20	

〔備考〕○印は必修科目

＊高校1種免許を取得する場合に、「書道」は、高校1種免許取得のための「教科に関する科目」ではないため「教科又は教職に関する科目」に充てることはできません。

教職に関する科目

免許法施行規則に定める専門教育科目区分等			本学で開設する科目		修得単位		備　考
科目		単位	科目	単位	中1	高1	
教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） 進路選択に資する各種の機会の提供等	2	○教職概論	2	2	2	
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	○教育原理 教育哲学 教育史概論	2 2 2	6	6	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		○学習・発達論 発達心理学 特別支援教育 教育心理学	2 2 2 2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		○教育の制度と経営 教育社会学 教育行政学	2 2 2			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	高6/中12	○教育課程編成論（中・高）	2	2	2	
	各教科の指導法		○国語科指導法Ⅰ ○国語科指導法Ⅱ 国語科指導法Ⅲ 国語科指導法Ⅳ	2 2 2 2	4	4	※①②
	道徳の指導法		○道徳教育の理論と方法（中）	2	2	—	※③
	特別活動の指導法		○特別活動の理論と方法（中・高）	2	2	2	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		○教育の方法と技術（中・高） コンピュータと学習支援（中・高） 教育方法学（中・高）	2 2 2	2	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 進路指導の理論及び方法	4	○生徒・進路指導の理論と方法（中・高） ○教育相談の理論と方法（中・高）	2 2	4	4	
教育実習（事前・事後の指導１単位を含む）		中5 高3	○教育実習（中学校） ○教育実習（高等学校）	5 3	5 —	— 3	※④
教職実践演習		2	○教職実践演習（中・高）	2	2	2	
中学校 高等学校		31 23	免許状取得に必要な単位数	国語	31	27	

〔備考〕○印は必修科目

※①　各教科の指導法は、取得しようとする免許状の教科ごとに履修してください。

※②　「教職に関する科目」の余剰単位として、取得する免許の教科以外、「教科又は教職に関する科目」に充てることはできません。

※③　「道徳教育の理論と方法」は、中1種免のみ必修。高1種免申請の場合は「教科又は教職に関する科目」として充てられます。

※④　中学校・高等学校の免許を両方取得希望の場合、「教育実習（中学校）」のみで可能です。

教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目		本学で開設する科目		修得単位	備　考
科目	単位	科目	単位		
教職又は教職に関する科目	中8 高16	○全人教育論 異文化理解と教育 生命と性の教育 情報メディアの活用 道徳教育の理論と方法(中)	2 2 2 2 2	中8 高16	高1種免のみ

〔備考〕○印は必修科目

※「教科又は教職に関する科目」には上記科目の他に、「教科に関する科目」「教職に関する科目」の余剰単位を充てることができます。

免許法施行規則66条の6 に定める科目

免許法施行規則に定める科目		本学で開設する科目		修得単位	備　考
科目	単位	科目	単位		
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	
体育	2	健康教育 体育	1 1	2	
外国語コミュニケーション	2	ELF201	4	4	
情報機器の操作	2	マルチメディア表現 ネットワーク入門 情報科学入門 データ処理	2 2 2 2	2	

2014年度　国語教職課程受講生への意識調査

（　　）年（　　）ゼミ　氏名（　　）

本調査は、リベラルアーツ学部の国語教職課程カリキュラム改善に関する検討及び研究のために行うものです。記名式ですが、これは調査票回収を効率よく行うためであり、個人が特定されるような形で結果を公表することはありませんので、ご安心ください。

リベラルアーツ学部国語教職関連科目担当：中村聡、中田幸司、永井悦子

1　大学で教職課程を受講しようと決めたのはいつですか。　例：高校3年生

（　　）

→「国語科」の教員を目指した時期はいつですか。

1．と同じ　／　1と異なる場合（　　）

2　教職課程を受講した動機にあたるものすべてに○を付けてください。
なかでも強い動機となったもの一つに◎を付けてください。

a.学校等教育関連の職場で働く家族や親類の影響　b.家族や教員、友人からの勧め
c.部活動の指導（者）へのあこがれ　d.これまでの学校生活で出会った先生の影響
e.これまでの学校生活で体験した友人との出来事の影響
e.書籍やドラマの影響　f.社会的な問題（いじめ問題や教員の不祥事等）への関心
g.本を読む楽しさを知ってほしい　h.安定した仕事に就きたい
i.その他（　　）

3　大学入学以前、どのような学習に取り組むのが好きでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。逆に嫌いだったものすべてに×を付けてください。

a.物語・詩の読解や鑑賞　b.説明的文章の読解や鑑賞　c.漢文の読解や鑑賞
d.古典文学（物語、和歌）の読解や鑑賞　e.漢字の学習　f.文法の学習
g.物語や詩の創作　h.g.以外の作文　i.スピーチ　j.ディベート　k.朗読　l.文学史
m.その他（　　）

4　大学入学以前、十分に学習する機会がなかったと感じるものすべてに○をつけてください。

a.物語・詩の読解や鑑賞　b.説明的文章の読解や鑑賞　c.漢文の読解や鑑賞
d.古典文学（物語、和歌）の読解や鑑賞　e.漢字の学習　f.文法の学習
g.物語や詩の創作　h.g.以外の作文　i.スピーチ　j.ディベート　k.朗読　l.文学史
m.その他（　　）

5　自分自身を振り返り、（国語科の）教員資格を得る者として不足していると、現時点で感じるのはどのような力ですか。あてはまるものすべてに×をつけてください。逆に自分自身に比較的備わっていると感じるものすべてに○をつけてください。

a.授業実践力　b.現代文学作品を読み解く力　c.論理的文章を読み解く力
d.古典（日本古典文学）教材を読み解く力　e.漢文教材を読み解く力
f.文法や言語事象に関する理解　g.コミュニケーション力（特に対人関係を築く能力）
h.自己表現力　i.使命感　j.責任感　k.協調性　l.児童や生徒を理解するための知識
m.国際的な感覚　n.社会人としての常識　o.教師という職に対する誇り
p.ボランティア精神　q.メディアリテラシー　r.現在の教育制度や法規についての理解
s.問題や課題を自力で解決していく能力　t.社会人としての常識
q.その他（　　）

6　リベラルアーツ学部で国語科の教員免許を取得することにメリットがあると思いますか。

ある　・　ない

→**「はい」と回答した方**：具体的にメリットだと考えるものすべてに○をつけてください。

a.日本文学や日本語といった専門科目以外の授業やゼミが受講できる
b.さまざまな分野に興味を持つ友人に出会える　c.教職以外の進路へ変更しやすい
d.その他（　　）

7　リベラルアーツ学部で国語科の教員免許を取得することにデメリットがあると思いますか。

ある　・　ない

→**「はい」と回答した方**：具体的にデメリットだと考えるものすべてに○をつけてください。

a.日本文学や日本語といった専門科目に関する授業やゼミが少ない
b.同じ目標や興味を持つ友人に出会いにくい　c. 教職に就くという決意が揺らぎやすい
d.その他（　　）

8　リベラルアーツ学部にどのような授業やサポートプログラムがあったらよいと思いますか。自由に回答してください。

ご協力ありがとうございました。